

授業科目(ナンバリング)	国際観光論(CA212) (実践的教育科目)			担当教員	※板垣 朝之 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
観光行動は人々の生活に非日常の「楽しさ」や「豊かさ」を与えるものであり、「楽しさ」、「豊かさ」の強弱は非日常性の高低が影響するものである。非日常性の典型が異文化との邂逅であるとするれば、それを積極的に理解する態度能力が求められる。この授業では自国文化・異文化理解をキーワードに、観光という切り口から国際的な文化の在り方を学び、そこから得られる「楽しさ」、「豊かさ」の共有を目標とする。							②③⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	異なるものを認め、「異文化」を理解する事で得られる喜びを、観光の切り口から提示・説明できる知識の修得と、その活用を実践することが出来る				・期末課題 ・小レポート ・授業参画度		20% 10% 5%
情報収集、分析力	文化の違いで生じる摩擦や興味の異なりを予測分析するだけの情報を収集出来る				・期末課題 ・小レポート		10% 10%
コミュニケーション力	文化の違いを共有・理解するために、自身とその社会が持つ文化に関してその特徴を説明することが出来る				・小レポート ・授業参画度		10% 5%
協働・課題解決力							
多様性理解力	文化の多様性をふまえた観光展開案を提示することが出来る				・期末課題 ・小レポート		20% 10%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
毎週の授業後レスポンスに授業へのコメント等を記入・提出し、全 15 週の内 2 回分を小レポートとして全体の 40%評価とする。期末課題はこの授業の内容を踏まえた自身の考えをまとめる目的で実施し 50%評価とする。世界の色々な動きや海外ニュース等に常に興味、関心を持って授業に臨む事を参画度として 10%評価し、これらを総合的に評価する。課題レポートのフィードバックは適宜ポートフォリオや授業時に行う。							
授業の概要							
授業はビジュアル資料等を使用し、交錯する文化の諸相、宗教、言語、民族、政治(軍事)、経済といった諸要素が、現代世界を舞台に互いに相関しつつどの様に進行しているのかを概観し、観光という手段を通じてその様な諸相をどのように理解してゆくのか、また異なる文化の諸相をどの様に自分事として捉え理解できるようにするのかといった課題を確認しつつ進行する。担当教員の旅行業での経験等に基づく知見等も利用して、広範な座標軸上の諸元を総合的に理解、判断できる知識の修得を目指す。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は 180 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書・指定図書：「新・観光立国論」デービット・アトキンソン著/東洋経済新聞社刊							
授業外における学修及び学生に期待すること							
現代社会は「不確実性の時代」とされており、国際的な諸国間の関係を見ても第二次世界大戦後に構築されたレジームは大きな変革を求められている。この様な環境下、我々が一個人としてどの様に生きてゆくのかは大きな課題である。観光という身近な切り口から国際化の舞台上の動きをどの様に理解し、個人としてどの様に対処して行けるのかへのヒントを見つけ出すという大きな目標に共感できるようになることを期待する。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	観光とは何か、観光の役割を再考する	授業全体のガイダンスと「観光」の持つ意味について改めて考察する。	予:「観光」の意味について確認しておく 復:「観光」の意味を復習
2	「文化」とは何か①	「文化」と呼ばれる事柄には具体的にどのようなものがあるのか考察する。	予:「文化」について考える 復:「文化」の諸相の復習
3	「文化」とは何か②	世界の宗教と言語について考察する。	予:「宗教」「言語」について考える 復:「宗教」「言語」の復習
4	「文化」とは何か③	世界の「政治」「軍事」の動きと第一次世界大戦から現在までの世界の政治史の動きを考察する。	予:第一次大戦後の世界史の動きを考えておく 復:100年間の動きの復習
5	「文化」の真正性と観光素材化	「伝統文化」の「観光化」のメリット・デメリットを考察する。	予:伝統芸能とは何かを考える 復:観光化の長短所の復習
6	「文化」の観光素材化とコンテンツツーリズム	日本の各種「文化」の観光素材化とコンテンツツーリズムの在り方を考察する。	予:コンテンツツーリズムについて考える 復:コンテンツツーリズムの復習
7	「文化」としての「食」	世界に誇る日本の「食文化」の在り方を考察する。	予:日本の食文化に関して考える 復:日本の食文化の再確認
8	戦前日本の国際観光戦略	日本の国際観光の始まりを再考し、その戦略を考察する。	予:インバウンド観光の始まりについて考える 復:インバウンド観光の始まりの復習
9	戦後日本の国際観光戦略	渡航自由化と貿易競争下でのアウトバウンド観光隆盛の歴史を考察する。	予:アウトバウンド観光の始まりについて考える 復:アウトバウンド観光の始まりの復習
10	日本のインバウンド観光戦略が目指したもの	国の重要産業としての観光産業活性化への切り札、インバウンド観光戦略を考察する。	予:インバウンド観光の意義について考える 復:インバウンド観光の意義の復習
11	インバウンド観光戦略の目玉としてのIR展開と現状	インバウンド観光戦略の目玉としてのIR(Integrated Resort)展開の現状を考察する(県IR誘致担当者の特別授業予定)	予:IRとはどのようなものなのかについて考える 復:IR展開の意義についての復習
12	コロナ禍・ウクライナ戦争前後の国際観光の状況	コロナ禍・ウクライナ戦争の前後に国際観光がどのように変化したのかを観光の視点から考察する。	予:2019年以前の自身の生活環境を考える 復:現在の自身の生活環境の再確認
13	国際観光の規模縮小・変化が世界経済に及ぼす影響	国際観光の規模縮小が日本と世界経済に与える影響について考察する。	予:国際観光規模縮小の影響について考える 復:国際観光縮小の復習
14	ポストコロナの国際観光戦略	コロナ禍・ウクライナ戦争後の日本の国際観光戦略の在り方を考察する。	予:今後の国際観光について考える 復:今後の国際観光戦略の復習
15	全体のまとめ、国際観光が果たす役割の再確認	授業全体のまとめと国際観光の舞台で観光業が今後果たす役割について考察する。	予:国際観光の世界的な役割を考える 復:国際観光の今後に関する自身の考えをまとめる